

3 (5) 商業

■現状

令和3年経済センサス-活動調査結果によると十勝管内の事業所数(卸売業・小売業)は、3,204事業所で全道の7.4%を占め、構成比は卸売業24.7%、小売業75.3%となっています。

また、従業者数(卸売業・小売業)は25,375人で全道の6.7%を占め、構成比は卸売業25.8%、小売業74.2%となっています。

■年間販売額

令和3年経済センサス-活動調査(卸売業・小売業)における十勝管内の年間販売額は、1兆505億円で全道の6.1%を占め、構成比は卸売業54.9%、小売業45.1%となっています。

■十勝管内の大型店の状況 (売場面積1,000㎡以上)

1市11町1村に98施設が開設しており、大半は帯広市に集中(58店舗)しています。(令和5年12月末現在)

■まちの新しい動き

帯広市内では、大型店の閉店の動きが相次いでおり、藤丸が昨年1月に閉店、長崎屋帯広店が令和5年7月に営業を終了、令和6年3月に全館閉館することを発表したほか、イトーヨーカドー帯広店も同年6月に閉店することを発表しました。長崎屋の建物解体後の新施設建設の時期や内容は未定となっていますが、イトーヨーカドー帯広店の閉店後は後継テナントとしてダイイチが出店を予定しています。

なお、藤丸については、令和7年秋頃の再開を目指す動きがあり、それまでの間の中心市街地の空洞化を防ぐため、令和5年は帯広商工会議所が中心となって、「広小路マーケット」を2回(6月、9月)開催し、合計で約1万3千人が訪れました。

その他、十勝管内における動きとして、音更町では、町内の国道241号沿いに大型店の出店が相次いでおり、令和5年には十勝初となる無印良品が出店、新得町ではJR新得町駅前の再整備を進めており令和7年には商業施設を含めた複合施設の開業が予定されています。

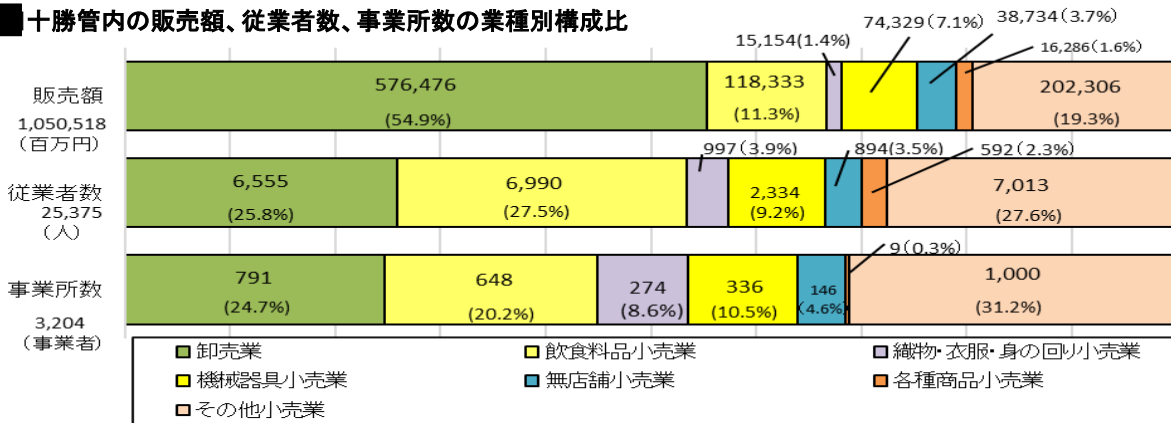
また、新型コロナが5類に移行したことに伴い、十勝最大の食と音楽のイベントである「とかちマルシェ」がコロナ前と同規模で開催され、期間中の来場者数は過去最高の11万6,000人を記録しました。



道の駅おとふけ
なつぞらのふる里(音更町)

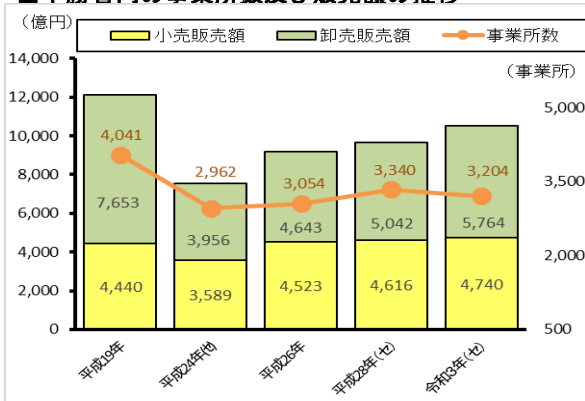


■十勝管内の販売額、従業者数、事業所数の業種別構成比



出典：総務省・経済産業省「令和3年経済センサス-活動調査結果」

■十勝管内の事業所数及び販売額の推移



出典：経済産業省「商業統計調査」及び
総務省・経済産業省「平成24年経済センサス-活動調査結果」
総務省・経済産業省「平成28年経済センサス-活動調査結果」
総務省・経済産業省「令和3年経済センサス-活動調査結果」
経済センサス-活動調査(卸売業、小売業)」



花しょうぶ(芽室町)

豆のまち本別の豆畑(本別町)



3 (6) 観光

■入込数

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための外出制限措置はとられず、「どうみん割」、「HOKKAIDO LOVE!割」などの国内旅行需要喚起策がとられたことに加え、令和4年6月からは観光目的の入国受入再開、10月には個人旅行の受入が解禁されました。

令和4年度の十勝管内の観光入込客数は、前年度比44.7%増の約1,029万人、内、道外客が同74.1%増の約192万人、宿泊客が同28.3%増の約149万人。内、訪日外国人宿泊客数は同9516.5%増の約3万人となりました。

■十勝観光の特徴

近年は、農作業体験、アウトドア体験、ガーデン巡り、ばんえい競馬、サイクリング、サウナなど十勝の自然や産業を活かした観光メニューが人気で、観光の目的が多様化しています。このような中で、全国的にも有名な豚丼、スイーツ、チーズをはじめとする質の高い乳製品、地元産の食材を使った飲食店などが注目されており、食は十勝の観光の大きな魅力となっています。

■ナショナルサイクルルート「トカプチ400」

トカプチ400は道内唯一、全国6カ所で指定されているナショナルサイクルルートの1つです。帯広市を起終点とした広大な十勝平野を8の字に結び、北は三国峠の山岳ルート、南は日高山脈や広大な平野を望むパノラマルートなど延長403kmのコースです。

レンタサイクルも充実しており、街乗りからロングライド、雪上サイクリングまで通年で楽しむことができます。



■十勝でサウナ

サウナの本場フィンランドの自然環境に似ている十勝では、フィンランド式の本格サウナや大自然の中でのアウトドアサウナなどを楽しむことができます。特に冬の凍結した屈足湖上で行われる「アヴァントサウナ」は、全国からサウナ愛好家が訪れています。



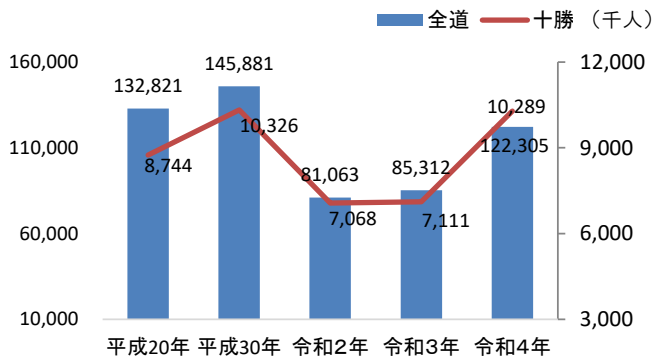
■これからの取り組み

日本を訪れる外国人観光客数の急回復が続く中、海外の旺盛な需要に応えるべく、農業や食、恵まれた自然環境を活かした誘客促進や魅力発信の取り組みを推進します。



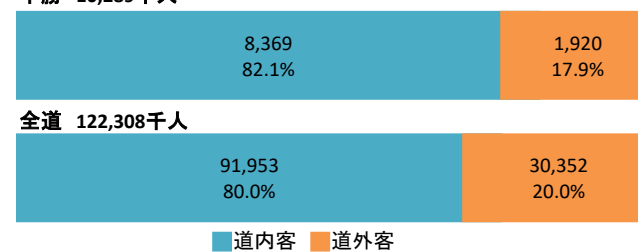
■観光客の推移

資料：北海道観光入込客数調査報告書



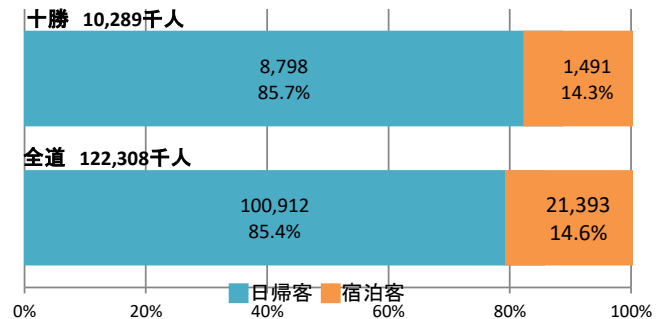
■道内道外別観光入込客数(令和4年度)

資料：北海道観光入込客数調査報告書



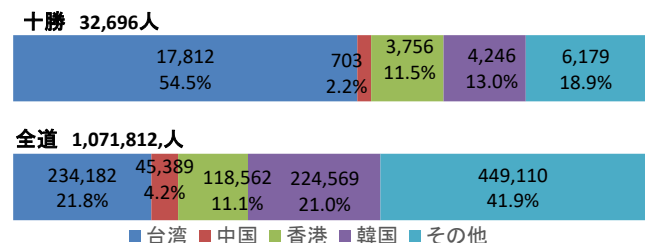
■宿泊日帰別観光入込客数(令和4年度)

資料：北海道観光入込客数調査報告書



■外国人宿泊者数(令和4年度)

資料：北海道観光入込客数調査報告書



3 (7) 航空宇宙

■ 航空宇宙の取り組み

十勝地域は、南東に大きく海が広がり、ロケットなどの打上げに適していることから、本道における航空宇宙産業基地構想の有力な候補地として期待されているほか、大気や宇宙の観測拠点として、様々な大学や研究機関による調査、実験活動が行われてきました。

大樹町には、1,000メートルの滑走路や大型飛行船に対応した格納庫、飛行管制塔などを備えた「大樹町多目的航空公園」が整備され、大気球等を用いた宇宙科学実験が実施されています。

陸別町には、「銀河の森天文台」が設置され、成層圏・対流圏の観測や、真っ赤な低緯度オーロラの撮影、研究が行われています。

また、近年では、衛星により農作物の生育状態などを把握するリモートセンシングの活用が期待されるほか、令和元年に大樹町に拠点を置くベンチャー企業により開発された小型ロケットが国内民間企業として初めて宇宙空間に到達（113.4キロメートル）し、令和3年には1ヶ月の間に2機連続で宇宙空間に到達、宇宙での荷物の放出、回収にも成功し、ますます航空宇宙関連技術の商業化に向けた動きも活発化しています。

国においては、平成28年11月のいわゆる「宇宙活動法」制定や、令和5年6月の「宇宙基本計画」閣議決定などにより、これまでの国主導の宇宙開発から、民間主導による宇宙利用が拡大する新たな段階に入りました。

この流れの中で、大樹町は令和元年に「北海道スペースポート構想」を公表、令和2年には町と道内企業等がともに出資してロケット、スペースプレーンの発射場・実験場を整備し、打上げ支援業務を担う「SPACE COTAN（株）」を設立し、十勝を舞台にした「宇宙版シリコンバレー」の形成に向けた動きが本格化しました。

企業版ふるさと納税を積極的に活用して推進してきた当整備事業は、令和4年3月に国の地方創生拠点整備交付金にも採択されるなど、民間商業宇宙港の実現に向けた新たなステージへと歩みを始めており、令和5年度には滑走路を1300mに延長する工事が行われました。

また、令和3年度より帯広市内において「北海道宇宙サミット」が開催され、十勝管内への宇宙産業集積に向けた取組が進められています。今後も、地域の関係者が連携して管内住民や企業等への理解を深める活動など様々な取組を進めて行くことが一層重要となっています。



北海道スペースポート構想
(画像提供:SPACE COTAN株式会社)



超小型人工衛星打上げロケット「ZERO」
(画像提供:インターステラテクノロジズ株式会社)